

学生と教員の見方

【学生の見方&考え方】

(3年 阿部巧美)

東京スカイツリーは2012年に開業した高さ634歳の電波塔であり、現在では日本を代表する観光名所となっている。その建設によって大きく変化したのが周辺地域の都市開発と地価である。

スカイツリーが立地する墨田区押上周辺は、かつて

は下町の住宅街や工場地帯が中心で、東京の中でも特に地価が高い地域ではなかった。交通の便は悪くはないが、都心の主要エリアと比べると商業施設や観光拠点は限られており、地価も比較的安定して推移して

地域の再生と多様性の共存

いた。

しかし、スカイツリーの建設計画が進むにつれて状況は大きく変わった。まず注目されたのは観光資源としての価値

であり、世界一高い電波塔という

話題性に加え、商業施設「東京ソ

ラマチ」や水族館などが併

設されることで、観光客の

集客が見込まれた。そのた

め、不動産業界や企業が周

辺地域への投資を活発化さ



には交通網の整備もある。

といえる。

「アピールポイント」
ジムに通っており体を動かすことや、食事やサプリの栄養価を調べて知識を吸収するのが好きです。

しかし、急速な地価上昇は地域住民にとって必ずしも良い影響ばかりではな

い。家賃の上昇や生活コスト

スカイツリー建設効果

地価上昇と地域経済活発化

トの増加により、従来の住

民が住みにくさを感じるケ

ースもある。つまり、スカ

イツリーによる都市開発は

地域経済を押し上げる一方

で、生活環境の変化をもた

らした。

スカイツリー建設前は下

町的な落ち着いた住宅街であつた押上周辺が、開業後は国際的観光地として地価が上昇し、都市開発が急速に進んだ。

これは単なる電波塔建設にとどまらず、地域の経済や社会に広範な影響を与えた事例として注目すべきである。

可能である。

例えば、地価上昇による住民の生活環境の変化は、居住空間の質の向上の兆候とも読み取れる。また、行政の都市政策や住民参加の有無といった制度的側面に目を向けることで、開発の

【教員による展開】
(山本卓教授)
学生の記事は、東京スカイツリーの開業が押上周辺にもたらした都市的・経済的变化を丁寧に追っており、事実関係の整理と論理展開に気を配っている。特論に期待したい。